

IGF2018報告会

マクロン演説を読み解く：“The right kind of regulation”

- 「インターネットガバナンス」におけるステークホルダー間の関わり方は今後どのように変わるか。
- 登壇者
 - 五十嵐大和（総務省データ通信課）
 - 高松 百合（株式会社日本レジストリサービス）
 - 上村 圭介（大東文化大学外国語学部）

このセッションにおける発言・意見は、登壇者個人のものであり、その所属組織を代表するものではありません。

"It seems that the Internet is here to stay. However, it is under threat, first of all from a structural standpoint, because cyberspace cannot be boiled down to a platform for conflict, if it is fragmented along national lines, along other lines, then it will simply cease to exist. That is why we need **the right kind of regulation**, because the shortcomings, the fault lines in the system are being held together by the efforts of states, substantial efforts, after all, there are cyber attacks being wielded quite frequently, whether by governments or criminal elements."

マクロン演説の注目ポイント

- 「オープンで、自由で、安全で、そして安心して使えるインターネットを守るための規制が必要である。」
- 「誤解を恐れず言うなら、インターネットのガバナンスにはカリフォルニア型か中国型がある。」
- 「IGFは具体的な提案を出す場であるべきだ。そのためにIGFの改革を進める必要がある。」

- 問 1) より強いIGFの模索は政府の役割の拡大を意味するか？
- 問 2) Paris Callをどう見るか？
- 問 3) 各国・地域における「インターネットガバナンス」への取り組みへはどのように影響するか？

このセッションにおける発言・意見は、登壇者個人のものであり、その所属組織を代表するものではありません。